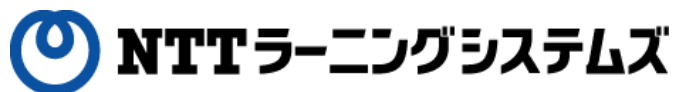


平成29年度 総務省・スマートスクール・プラットフォーム実証事業  
合同委員会（第3回）

「スマートスクール・プラットフォーム標準化について」

平成30年3月7日



# 検討状況、及び活動報告

## 本年度の成果物

- ・ スマートスクール・プラットフォーム標準仕様の骨子
- ・ 個人の属性情報に関する技術仕様の仮定義

## 論点検討結果・方向性 (第1回 (11/29)、第2回 (1/31)、第3回 (2/28) システム連携協議会)

### 標準化 アウトライン

- ・ スマートスクール・プラットフォームは「(標準化された連携機能による) 児童生徒および教職員が利用する相互連携システム群」と仮定義
- ・ 「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」にパブリッククラウド要素を追加してスタート
- ・ 標準化は、各システムの機能や保有データは規定せず、システム間のインターフェースを規定
- ・ データ集約は、自治体が調達するシステム・サービスにデータ集約するモデルをスコープ

## 第2回評価委員会 (1/17) におけるご指摘事項

パブリッククラウド活用について、セキュリティ、制度（特に個人情報保護条例上の整備）、責任分界点の話は別。業務委託なのか第三者提供なのか、（自治体間の）相互利用にあたるのか等を含めて早めに整理が必要

標準化作業において、データをどう回すかという議論をするためにもユースケースの整理が必要

実証地域による実態ヒアリング、及び論点検討し、標準仕様のドキュメントに反映予定  
(骨子案には考慮済み)

インプットであるユースケースで整理を図り、データモデル・データフロー・API検討として取り組む

## 成果物の作成 (第2回～第3回システム連携協議会)

### スマートスクール・プラットフォーム 標準仕様の骨子※

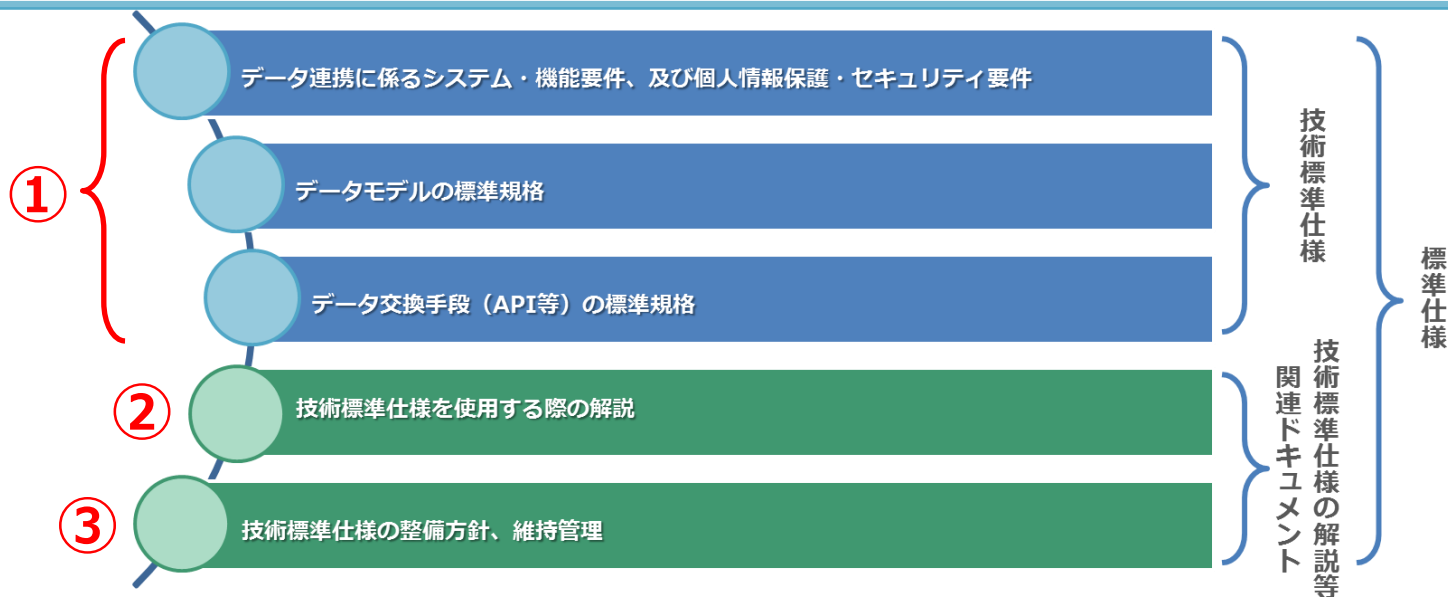
- ・ 標準仕様を技術仕様・技術仕様解説・維持管理の3部構成とし、骨子を作成
- ・ 上記について、構成要件（目次の構成要件（章・節））、記載要件を協議会で検討

### 個人の属性情報に関する 技術仕様の仮定義※

- ・ 事務局案の作成、及び協議会メンバーによる検討（残課題がある認識）
- ・ 残課題を中心に継続的に検討・ブラッシュアップを実施することで協議会で合意

※評価委員資料として配布

# スマートスクール・プラットフォーム 標準仕様の各ドキュメントの立て付け 構成案



ドキュメント構成	主な記載内容・目的	想定する読者
①スマートスクール・プラットフォーム標準仕様 ＜技術仕様＞	システム間のデータ連携を実現する際、準拠するシステム間インターフェースの技術的仕様、及び、このデータ連携を実現する前提条件となるセキュリティへの対応、法令に対する要件を記載したドキュメント。 スマートスクール・プラットフォームの定義・要件・構成やデータ交換手段となる通信プロトコル・API等の定義、連携対象となるデータモデル・ポキャブラリの定義、前提条件となるセキュリティ要件、法令への対応要件等を示す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携システムの開発に携わる者</li> </ul>
②スマートスクール・プラットフォーム標準仕様 ＜技術仕様解説＞	①＜技術仕様＞を使ったスマートスクール・プラットフォームを実現するユースケース、及び、具体的なAPIを利用したデータ連携シーケンスを記載したドキュメント。	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携システムの開発に携わる者</li> <li>自治体（教育委員会含む）のシステム調達担当者</li> </ul>
③スマートスクール・プラットフォーム標準仕様 ＜維持管理＞	本事業で策定するスマートスクール・プラットフォーム標準仕様は、策定後においても新たな動向や制度変更に対応する維持管理が必要不可欠である。この標準仕様の維持管理を確実に実施するために必要となる仕様策定方針（標準化検討した論点のまとめ）、維持管理体制、維持管理におけるミッションを明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準仕様の維持管理を担う者（団体含む）</li> </ul>

## 目次

### 1. はじめに

- 1.1 本書の概要
- 1.2 本書の構成
- 1.3 要求水準等
- 1.4 用語

### 2. 構成要件

- 2.1 スマートスクール・プラットフォームの定義
  - (例) 2.1.1 ネットワーク要素に係る要件
  - (例) 2.1.2 サーバ要素に係る要件
  - (例) 2.1.3 情報端末要素に係る要件

### 3. RESTful APIのサービスモデル

- 3.1 APIサービス情報
  - (例) 3.1.1 getAllStudentInfo
  - (例) 3.1.2 getStudentInfo
  - ...
- 3.2 Base URL
- 3.3 HTTPレスポンスコード
- 3.4 セキュリティ

### 4. データモデル

- 4.1 データ型と共通コード
  - (例) 4.1.1 データ型
  - (例) 4.1.2 共通コード
    - (例) 4.1.2.1 学年コード
    - (例) 4.1.2.2 異動コード
    - ...
- 4.2 基本項目
  - (例) 4.2.1 氏名情報
  - ...
- (例) 4.3 個人または組織に関する基本的な属性
  - (例) 4.3.1 studentInfo
  - (例) 4.3.4 schoolInfo
  - ...

### 5. データ連携のための前提要件

- 5.1 ネットワーク及びネットワークサービスへのアクセス
- 5.2 情報の転送
- 5.3 適用法令及び契約上の要求事項の特定
  - (例) 5.3.1 サービスの提供や利用に関する契約上の要件
    - (例) (1) 自治体とシステム提供ベンダー間の責任分界点の整理
    - (例) (2) 自治体と利用者間の責任分界点の整理
  - (例) 5.3.2 個人情報保護法制への対応要件
    - (例) (1) 改正個人情報保護法への対応要件

## 目次

1. はじめに
  - 1.1 本書の概要
  - 1.2 本書の構成
  - 1.3 用語
  
2. API利用のためのユースケース
  - (例) 2.1 児童生徒の異動
  - (例) 2.2 児童生徒の進級
  
3. データ連携シーケンス
  - (例) 3.1 個人識別に関するユースケース
    - (例) 3.1.1 enrollmentTokenによる進級時のデータ連携

## 目次

### 1. はじめに

- 1.1 本書の概要
- 1.2 本書の構成
- 1.3 用語

### 2. スマートスクール・プラットフォームの標準仕様の在り方

- 2.1 スマートスクール・プラットフォームの概要
- 2.2 スマートスクール・プラットフォームの標準化の意義
  - 2.2.1 データ活用による教育の質の向上、業務負担の軽減
  - 2.2.2 コスト軽減等によるICT導入促進
  - 2.2.3 市場拡大とイノベーションに与える影響
- 2.3 スマートスクール・プラットフォーム標準仕様の整備
  - 2.3.1 スマートスクール・プラットフォーム標準仕様の整備方針
    - (1) オープン化すべき領域、技術要素、機能／非機能要件
    - (2) 安全・安心、効果的・効率的、適切な情報連携
    - (3) 適用法令および契約上の留意すべき点
  - 2.3.2 スマートスクール・プラットフォーム標準仕様の目指す方向性
- 2.4 スマートスクール・プラットフォーム標準仕様の維持管理

### 3. スマートスクール・プラットフォーム標準仕様の維持管理

- 3.1 標準仕様の維持管理の概要
- 3.2 維持管理の運営
  - 3.2.1 運営体制の確立
  - 3.2.2 運営リソースの確保
  - 3.2.3 運営計画の立案
- 3.3 維持管理活動
  - 3.3.1 仕様管理
  - 3.3.2 仕様整備
    - (1) ニーズ・動向の把握
    - (2) 利用モデル検討
    - (3) 仕様化検討
  - 3.3.3 普及促進
    - (1) 普及促進活動
    - (2) 仕様準拠認定